菓子類の支出

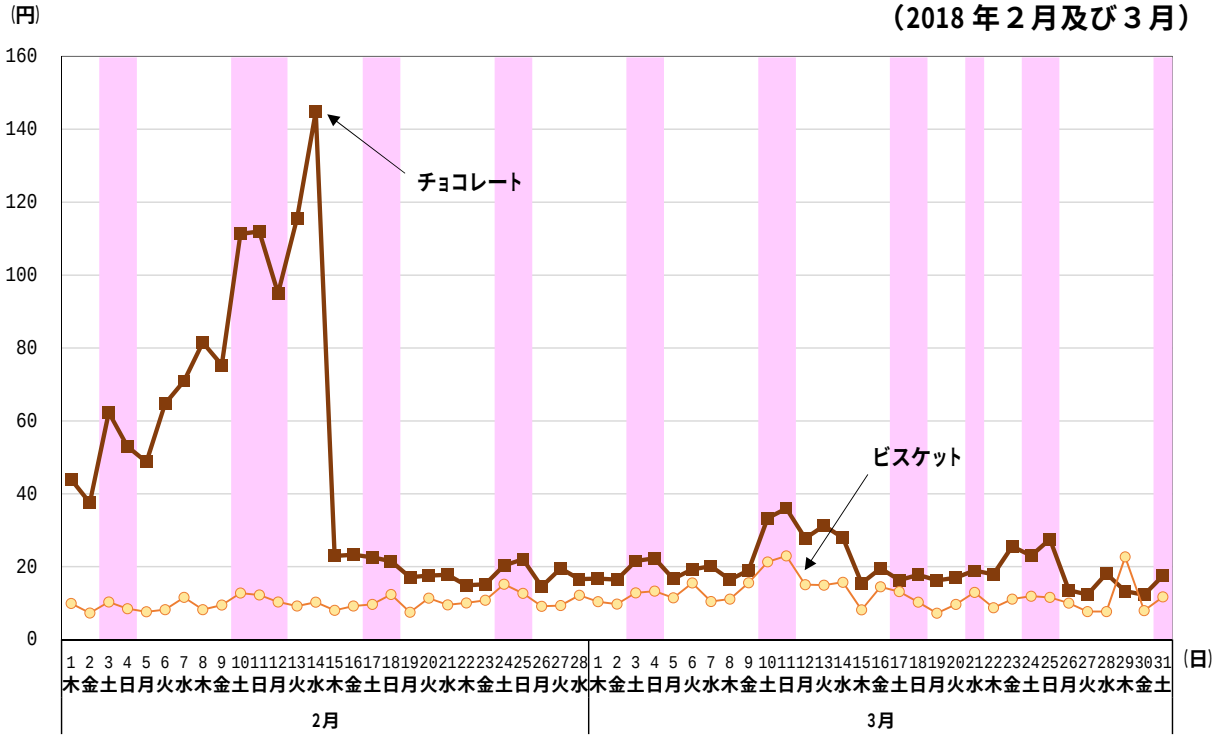
－　家　計　調　査　結　果　よ　り　－

２月14日はバレンタインデーです。チョコレートをあげたり、もらったりした方もいらっしゃるのではないでしょうか。そこで今月は、チョコレートをはじめとした菓子類の支出について、家計調査（二人以上の世帯）の結果から見てみましょう。

２月14日にかけて「チョコレート」の支出が増加

まず、「チョコレート」の支出金額を2018年の２月及び３月の日別にみると、バレンタインデーにかけて支出が増加しており、２月14日（水）が145円と最も多くなっています。バレンタインデー後の15日以降は支出が少なくなっており、ホワイトデー（３月14日（水））の前に再び支出が増加しています。また、バレンタインデーのお返しとして、ホワイトデーにクッキーを贈ることがありますが、ホワイトデーの前の３月11日（日）は、クッキーを含む「ビスケット」の支出が23円と、３月の日別平均（12円）よりも多くなっています（図１）。

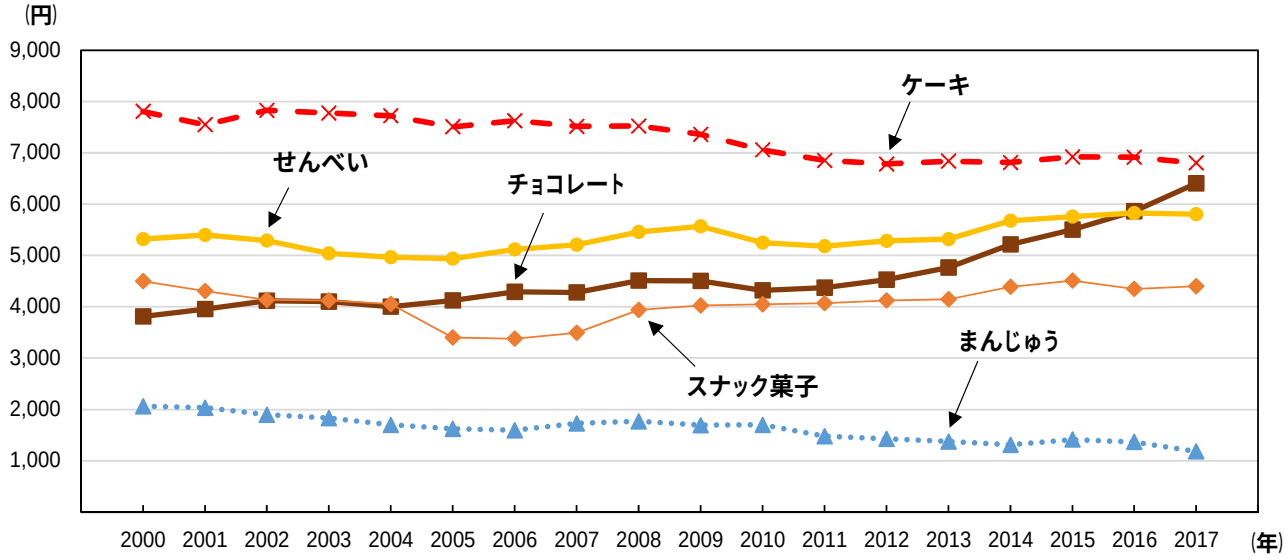
図１　「チョコレート」及び「ビスケット」の１世帯当たりの日別支出金額
（2018 年２月及び３月）



「チョコレート」の支出は 2000 年に比べ 1.7 倍

次に、「菓子類」全体の年間支出金額の推移をみると、2017 年は 83,087 円で、2000 年（78,532 円）の 1.1 倍となっています。内訳をみると、「せんべい」の支出はほぼ横ばい傾向、「ケーキ」や「まんじゅう」は緩やかに減少しています。一方、「チョコレート」は年々増加傾向にあり、2017 年の支出は 6,406 円と、2000 年（3,809 円）の 1.7 倍となっています（図２）。

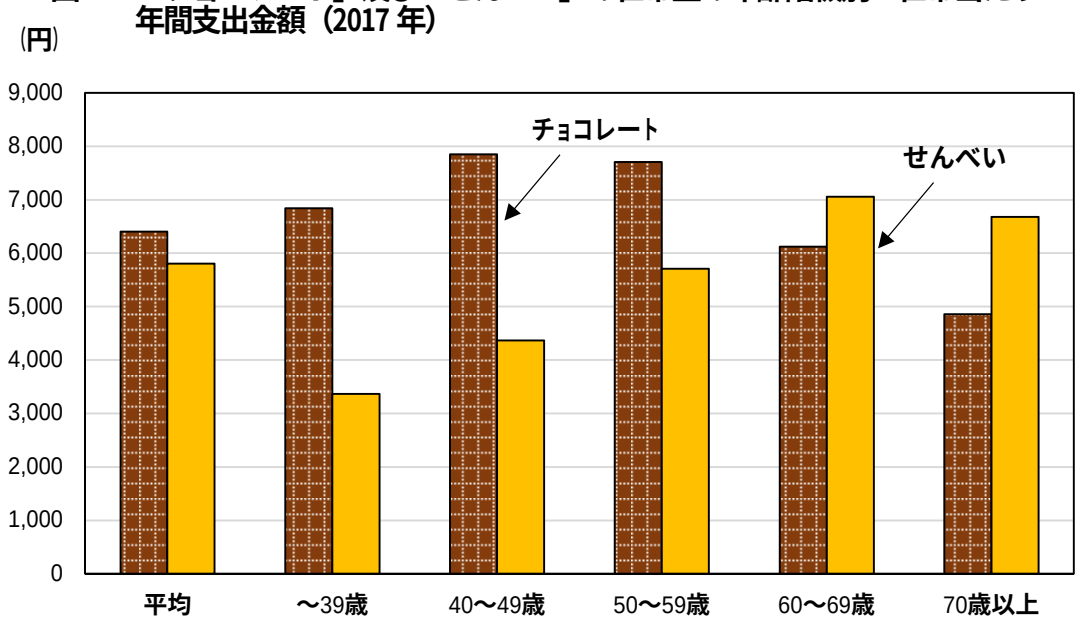
図２　「ケーキ」、「チョコレート」、「せんべい」、「スナック菓子」及び「まんじゅう」の１世帯当たり年間支出金額の推移（2000～2017 年）



「チョコレート」は 40～49 歳、「せんべい」は 60～69 歳がピーク

最後に、世帯主の年齢階級別に「チョコレート」及び「せんべい」の年間支出金額をみると、「チョコレート」は、40～49 歳の世帯が 7,848 円と最も多く、最も少ない 70 歳以上の世帯（4,857 円）の 1.6 倍となっています。一方、「せんべい」は、60～69 歳の世帯が 7,057 円と最も多く、最も少ない 39 歳以下（3,364 円）の 2.1 倍となっています（図３）。

図３　「チョコレート」及び「せんべい」の世帯主の年齢階級別１世帯当たり年間支出金額（2017 年）



「家計調査通信第540号（2019年２月15日発行）」より